

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人湯本清の上告趣意のうち、判例違反をいう点は、所論引用の大正二年（れ）第一八五号同年十一月十九日大審院判決及び大正二年（れ）第一二一号同年十二月二三日大審院判決は、すでに当裁判所の判例により変更されたものであり（昭和二七年（あ）第六五九六号同三〇年一〇月一四日第二小法廷判決・刑集九卷一一号二一七三頁、昭和三年（あ）第四六九号同三三年五月六日第三小法廷判決・刑集一二卷七号一三三六頁参照）、また、所論引用の昭和二六年（れ）第七七号同年六月一日第二小法廷判決は、事案を異にして本件に適切でなく、その余は事実誤認の主張であつて、いずれも刑訴法四〇五条の上告理由にあたらない。

よつて、同法四一四条、三八六条一項三号により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和五二年一月二一日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	天	野	武	一
裁判官	江	里	口	清
裁判官	高	辻	正	己
裁判官	服	部	高	顯
裁判官	環		昌	一